

## 平成26年度 西小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

5月22日(木)に開催された「西小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、西小校区では、【防災訓練】【子どもの健全育成】【高齢者】の3つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話983-2708)



皆さん、ご参加ありがとうございました。

### 【当日参加団体一覧】

団体名		
加屋町自治会	環境美化推進委員会	消防団第1分団
清住町自治会	交通安全母の会	西幼稚園
三好町自治会	エコリーダー	西幼稚園PTA
西本町町内会	スポーツ推進委員会	西小学校
栄町自治会	民生委員・児童委員	南中学校
西若町自治会	緑町佐野保育園	学校支援地域本部
緑町自治会	寿町寿会	地域包括支援センター
南町自治会	栄町長寿会	地域づくりコーディネーター
広小路町自治会	西若西友クラブ	緑町子ども会
泉町自治会	南和会	栄町子ども会
寿町自治会	加屋町歩会	西本町子ども会
本町大中島自治会	広小路町楽寿会	

※当日参加者 38名

アンケート：分野ごと最も話し合いたいテーマについて、参加者の希望を伺いました。



### 【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①防災訓練への中学生の参加率を上げるためには?・・・3人 ②要援護者をどのように助けるか?・・・13人 ③住民・子どもの参加しやすい魅力的な訓練とは?・・・12人 ④防災・消火体制を整備するには?・・・7人
子どもの健全育成	①3世代交流を進めるには?・・・16人 ②子ども会をどのようにサポートするか?・・・18人
高齢者	①高齢者の集いの場を増やすことについて

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。（○：参加者発言 ●：市長発言）

## 【防災訓練】

今まで	これから
<p>テーマ① 防災訓練への中学生の参加率を上げるためには？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校としても、生徒が運営する訓練等を計画してみたい気持ちもあるが、訓練日が西、東、南地区それぞればらばらで、どうしても部活の関係で参加できない。</li> <li>○起震車は東部に1台、水消火器も数が限られていて、全地域同時に訓練を行うことは現状ではできない。</li> <li>○訓練をどうするかより、いざ大きな災害が起きた時にどうするかの方が課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○訓練の日にちを統一できるなら、中学生は全員参加できると思う。12月の寒い時期が、子どもたちは参加しやすい。</li> <li>●訓練日は9月と12月が基本。中学生は12月が部活がなく参加しやすい。</li> <li>○起震車や機材など制約がある。それでも一斉に魅力的な訓練をするなら、独自性を出すための工夫がいる。</li> <li>○地域とどうつながるか生徒会（南中）が考えている。生徒会に話を持ってきてくれれば、議会で訓練のアイデアを考えることができる。ただ子どもの考えなので、現実離れしたものになるかもしれない。</li> <li>○学校でも生徒に、なぜ訓練に出るのか、訓練の必要性を教えてほしい。</li> <li>○中学生に魅力的な訓練について尋ねてもピンとこない。それよりも、いざ災害が起きた時、中学生はどのような活動ができるか考えることが一番だと思う。</li> </ul>
<p>テーマ② 要援護者をどのように助けるか？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災委員の任期が短く、役員が代わるたびに最初からやり直し。民生委員と打ち合わせしても「個人情報が開示できない」で終了してしまう。</li> <li>○民生委員の情報が自治会に入っていない。最終的に個人情報の問題になる。</li> <li>○民生委員は現在要援護者の調査をしている。要援護者は手あげ方式。救助してほしい人はお願いするかわりに、町内に情報が出ることを了承している。</li> <li>●今年の要援護者リストも間もなく出来上がる。そのリストを基に町内の支援体制を決めてほしい。</li> <li>○支援者確保が課題。昼間災害が発生した場合、仕事をしている人は救助に行けない。</li> <li>○緑町自主防災会では中学生・高校生も入った支援体制を作っている。</li> <li>○緑町では従来、組単位の自主防災だったが、昨年それを解体し町内7班に分けて、それぞれ専任者をつけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年、栄町自治会では組織・制度を変えた。防災セクションは自治会経験者とし、任期なしで長くやってもらおうと思っている。</li> <li>○防災委員は要援護者を知らないと災害時対応できない。</li> <li>○個人情報の問題は、救助してほしいと手をあげた方（要援護者リストに載っている方）に関してはない。</li> <li>○災害時は隣近所で助け合うことが基本。そんな地域社会に作り直していくことが自治会の役目だと思っている。</li> <li>○中高生は卒業してしまうので、その体制は同じ様に続くわけではない。毎年確認が必要。</li> <li>○班の中で自主防災組織を構築し、その中で要援護者を支援していくのが今年の目標。</li> </ul>

今まで	これから
<b>テーマ③ 住民・子どもが参加しやすい魅力的な訓練とは？</b>	
<p>○訓練開催が涼しい時期に変更になり感謝している。消火器訓練、煙の訓練は楽しく良い経験になっている。</p> <p>○マンネリ化している。魅力が無くなり、参加者が少しずつ減少している。</p> <p>○自治会長の頑張りにより、訓練内容は年々良くなっているが、参加者がいつも同じ人。どうしたらいいか。</p> <p>○住民や子どもの生の意見・希望を疎かにしているのではないか。</p> <p>○昨年、緑町では車椅子・担架・リヤカーを各班にふり分け、要援護者に見立てた小学生を搬送する訓練を行った。通常の倍の人数(277名)が集まった。</p>	<p>○災害の実体験がなく、危機感がない。自分は大丈夫という安心感を変えていかないといけない。</p> <p>○訓練内容を少しずつ変えていき、変更点をアピールするしかないかと思う。</p> <p>○マンネリ化対策として、マンション1階のスーパーを利用して、日持ちする食材や安全機器の展示を考えている。普段使う食材で、循環させながら常備もでき、また火を使わずに済む食材はどんな物があるか。</p> <p>○子ども会や学校の協力を得て、子ども達のアイデアや女性の声を聞き、訓練を組み立てていくことも必要だと思う。</p> <p>○「あなたは何をやってください」というように、具体的な役割を与えるとよい。</p> <p>●黄色いハンカチは、自分の家は大丈夫だという印。安全確認がすばやくでき、また訓練への参加意思を示すことにもなる。普段の訓練から徹底してほしい。</p>
<b>テーマ④ 防災・消火体制を整備するには？</b>	
<p>○昼間に災害が発生した場合、子ども・専業主婦・高齢者しかいない。どういったことができるのか。</p> <p>○この校区は世帯数・マンション・テナント・飲み屋も多い。昼間生活している世帯が非常に少ないことが問題。</p> <p>●マンションは停電時、エレベーターやトイレが使用できなくなる。住民が災害に対応できるよう防災意識を持つことが大事。</p>	<p>○一昨年マンションの理事会で防災委員会を立ち上げ、防災マニュアルを作った。昨年役割分担について話し合い、今年は防災企画委員会で防災体制(理念、目標など)を決める。組織・体制づくりから始めている。</p>

## 【子どもの健全育成】

今まで	これから
<b>テーマ① 3世代交流を進めるには？</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昨年は祭りの当番町だった。祖父母、親、子ども、孫たち、皆一緒に参加してくれた。</li> <li>○ 夏休みの西小ラジオ体操に一日平均 100 人参加している。西小おやじの会が参加した 8/25 は 176 名で、一番多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他にも3世代で参加できる行事があればいいと思う。</li> <li>○ 夏休みに限らず、皆さんに早朝のラジオ体操に参加してほしい。来る時・帰る時にコミュニケーションが生まれる。</li> <li>○ 年寄りが関心をもち、子どもに干渉していくことが良いと思う。</li> </ul>
<b>テーマ② 子ども会をどのようにサポートするか？</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親の都合で子ども会に入らないのが大半。親が役員をやりたくないから子ども会に入れない。</li> <li>○ 加屋町では、祭り・しゃぎりの練習など自治会でサポートしているのが現状。</li> <li>○ 本町大中島自治会では、「子どもは地域の宝事業」を行う時に、自治会と子ども会が一緒になって、親子共々赤ちゃんのお祝いをする。</li> </ul> <p>● 市内小学生 6,000 人強いるうち、子ども会加入者は 3 分の 1 程度(2,000 人)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現状、自治会が子ども会をサポートしなければ駄目だと思う。</li> <li>○ 子どもが赤ちゃんの時から、子ども会に自動的に入ってもらえるよう活動している。</li> <li>○ 子ども会は小学校から入るのではなく、生まれた時から地域の子ども=子ども会予備軍であるということ。</li> <li>● 子ども会の状況をみかねて、自治会で健全育成会を作り子ども会と同じような活動をしている町内もある。</li> <li>● 北小の育成部長は子ども会の地区長を兼ね、子ども会行事は子ども会と PTA の主催で行っている。参考にしてほしい。</li> </ul>

## 【高齢者】

今まで	これから
<b>テーマ① 高齢者の集いの場を増やそう！</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広小路町楽寿会では、年々、老人会会員が増加している。子ども会にも声をかけ、輪投げの練習など子ども会と交流している。</li> <li>○ 勧誘もしているが、活動を見て老人会に入りたいと自主的な参加が多くなっている。</li> <li>○ 互いに手を差し伸べることが自然にできている。</li> <li>○ 加屋町歩会も広小路町楽寿会と同様の意見。</li> <li>○ 緑町には集会場がない。コミュニティ事業募集要項の一つ、「町内の施設利用」を再検討し、老人福祉センターの使用を許可してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 若松町コミュニティカフェの現状を参考にしたい。</li> <li>● ぜひ皆さんでコミュニティカフェへ見学に行ってください。</li> <li>○ この校区のコミュニケーションはよくできている。交流、情報共有の場を持ってもらえば、ますますこの地域が発展すると思う。</li> </ul>

今後の地域活動の参考にしてください！